

製品名: P311 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab15613

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	NREP
別名	NREP; C5orf13; P311; Neuronal regeneration-related protein; Neuronal protein 3.1; Protein p311
遺伝子 ID	9315.0
SwissProt ID	Q16612
免疫原	抗血清はヒト C5orf13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 13-62

背景

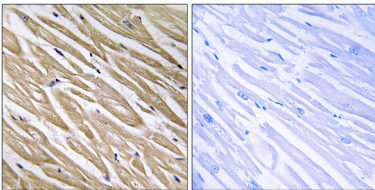
P311 は、C5orf13（第5染色体オープンリーディングフレーム 13）、D4S114、PTZ17、または PRO1873 としても知られ、細胞分

化、神経機能、軸索再生に関与する 68 アミノ酸からなる細胞質タンパク質です。小脳顆粒層に存在し、海馬、嗅球、腎臓、肝臓、心臓で低レベルで発現しています。異所的に発現した場合、P311 は白斑の運動性を増強します。P311 は、マウスにおいて、E20 では表皮層および線条体に、E17 では胚帯に多く存在します。フィラミン 1 と相互作用することが知られている P311 は、レチノイン酸脂質滴の生合成を制御し、筋線維芽細胞のアメーバ様遊走と線維芽細胞から筋線維芽細胞への分化を誘導します。Ser-59 のリン酸化は P311 の安定性を低下させる。P311 をコードする遺伝子はヒト染色体 5q22 に位置する。トランスフォーミング成長因子 β 受容体シグナル伝達経路の調節、

研究分野

心臓血管; 脂質/リポタンパク質; 脂肪関連; 脂肪滴タンパク質; 細胞生物学; 細胞周期; 細胞分化; シグナル伝達; 代謝; 脂質代謝; 神経科学; 神経プロセス; 神経再生

画像データ



C5orf13 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。